



# 深刻さ増す看護師不足

病院の看護師不足が深刻さを増している。背景に夜勤が多いなど厳しい労働環境があり、神戸市の総合病院では昨年春からの1年間で60〜70人が離職した。日本看護協会によると兵庫県内の看護師の離職率は13.4%で、全国平均の11%を上回る(2010年度調査)。労働者の疲労を研究する専門家は「安全性の面で、夜勤者は酒気帯び運転より危険という結果が出ている」として、医療の安全面で警鐘を鳴らす。

厚生労働省は昨年6月、看護師らの「雇用の質」の向上に向け、各都道府県知事に協力を要請。文書で「健康で生きがいを保てることを」として、提供体制や医療安全の確保は望めない」として、労働条件の改善などを求める。年間に60人を超す看護師が離職した神戸市の総合病院。ここで働く看護師Aさんは在職15年目のベテランで日勤、深夜勤、準夜勤の

## 県内離職率13%超す

3交代制で勤務する。深夜勤・準夜勤は合わせて月に12〜14回あり、勤務中はほとんど休憩が取れない。一番きついのは日勤から深夜勤に移る勤務だ。日勤は午後7時に終わるが、5時間半後の午前0時半には次の深夜勤が始まり、朝まで続く。研究などで休みがつかず、自由にし結婚や育児などを機に使える休日は月に3、4日退職し、そのまま看護師の

深程度だという。離職するのは病院に入ってから3〜5年の看護師が多く、Aさんのようなベテランの負担は重くなる。「家族の支援がないと仕事を続けられない。看護師として働き続けるためには、結婚しても出産はあきらめるしかない」とため息をつく。

看護師の資格を持つ人より安全性に問題があるは、過労の状態は変わらな

## 神戸の病院 過密労働 年間退職者70人

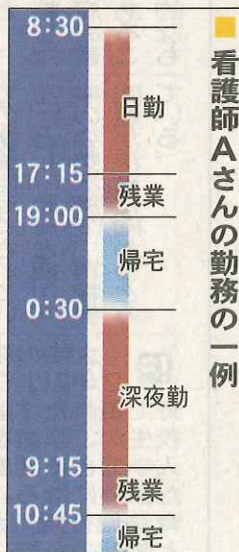
「潜在看護師」が全国で55万人に8時間勤務の夜勤に2時間の仮眠を取ることを勧め

財団法人・労働科学研究所慢性疲労研究センター(川崎市)の佐々木司セナター長は「酒気帯び運転もこれも取り組んでい

その上で「看護師も意識して休むことが必要。あれ

事故が少ないのは、看護師が気持ちを張り詰めて仕

(中部 剛、紺野大樹)



(第3種郵便物認可)

深刻さ増す  
看護師不足

# 過酷な夜勤、対策を

## 病院側、パートで対応も

深刻さを増す看護師不足を受け、病院側は常勤の看護師確保に躍起だ。夜勤手当の増額や奨学金の支給、安価な住宅提供のほか、看護師を連れてきた職員に報奨金を出す病院もあり、あの手の手で人材獲得に努める。

(1面参照)

病院間の激しい争い。入院患者7人に対しは、2006年の診療報酬看護師1人を配置する病院に對し、入院基本料が



労働条件の改善を掲げ、署名を集める兵庫県内の公立病院の看護師ら＝神戸市内

上乗せされることになった。この「7対1基準」によって、看護師確保が病院経営に直結するようになり、看護師の取り合いへとつながった。

神戸市内のある病院では、昨年春からの1年間に32人が退職した。今年4月1日現在、常勤看護師の定数177人に対し、実働143人とどまっているため、パートタイムの看護師を増やして対応している。

病院側は、新たに看護師を紹介した職員に対し5万円の報奨金を支給す

るといい、担当者は「他の病院から引き抜くことまでは考えていないもの

の、どんな手段を使っても看護師を増やしたいのが本音」と漏らす。病院側は数の確保に向けて知恵を絞るが、看護師からは「夜勤の緩和など労働環境が変わらないと、離職問題の根本的な解決にならない」との声が上がる。

(中部 剛、紺野大樹)